

ながれのをか ながれの をか みかの はら **流岡**は瓶原の西加茂の渡のほとりなり。〔南都大仏殿建立の時、伊賀より材木を組いづみがは

て通る事なし。聖武帝宸襟しやうむていを悩なし給ふ所、良辨僧都岩岨りやうべんそうづにこもりて、千手の法を修し給へば、忽ち岩石砕散て道を開く、故に多くの材木筏に組いづみがはと流し、其くだけたる巖ながれとまりて、此所を流ながれの をか いふ。又一つの岩河下に流いづみがは

飯岡いひをかといふ〕